

# コーポレート・ガバナンス

アンリツは、経営環境の変化に柔軟かつスピーディーに対応し、グローバル企業としての競争力を高め、継続的に企業価値を向上させていくことを経営の最重要課題としています。その目標を実現するために、コーポレート・ガバナンスが有効に機能する環境と仕組みを構築することに努めています。

## コーポレート・ガバナンス体制

当社は、取締役会と監査役会を中心としたコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。また、2000年に導入した執行役員制度により、取締役と執行役員の機能と責任を明確に分離しています。

業務執行に関する重要事項については、経営戦略会議において審議・決定することで、意思決定の情報共有プロセスの明確化を図るとともに、取締役会で審議・決議される事項は事前に経営戦略会議においても議論を行い、審議の充実を図っています。経営戦略会議は毎月1回から2回開催しています。

取締役会は、四半期ごとに執行役員から担当する事業部門の状況報告をレビューするなど、経営監督機能の充実を図っています。なお、執行役員14名のうち取締役兼務者は5名です。

このほか、チェック&バランス機能を強化するため、業務監査については、経営監査室を設置し内部監査を行っているほか、例えば輸出管理に関する日常的なモニタリングは貿易審査室が行うなど、必要に応じて各部門および委員会がその機能を分担することで、コンプライアンスと監査機能の強化を図っています。

## 報酬諮問委員会

取締役、執行役員、理事の報酬については、取締役会の諮問機関である報酬諮問委員会において審議することにより、透明性を確保しています。

当期の取締役7名に対する報酬額は122百万円であり、このほかに使用人兼務取締役3名に対して、使用人分として38百万円を支払っています。また、上記支払額のほか、当期の業績に対する利益処分として、役員賞与金30百万円があります。

## 内部統制システムの整備

企業の成長およびその経営目標達成の阻害要因（ビジネスリスク）を網羅的に把握・評価し、全社的に管理するためには内部統制システムの整備が不可欠です。アンリツは、ビジネスリスクマネジメントの先進的な枠組みであるCOSO-ERM<sup>(注17)</sup>に基づいて内部統制システムの強化活動に取り組んでおり、その整備を加速する組織として2006年4月に内部統制推進室を新設しています。また、2006年5月開催の取締役会において「内部統制システム構築の基本方針」を決議しており、今後のいわゆる日本版企業改革法対応はもとより、企業価値向上に向けた業務プロセスの継続的改善に取り組んでいきます。

(注17) COSO-ERM: 2003年、米国COSOから出された内部統制のフレームワーク。ERMは、エンタープライズ・リスク・マネジメントの略語。

